



おやぶらせたかったん？  
おちんちん

しょうがないなあ♡

近よく来てくれるし特別やで♡

いつもの個室の便座に腰を下ろすと、  
犬山さんは僕の股の間にしゃがみこんだ。  
綺麗な顔の目の前に僕の粗末な物がある。  
その対比がとても卑猥に感じた。

今日はフェラチオやんな？  
よろし、私のお回で搾りとったるでっ♡



まずはしゃぶる前に  
おちんちんさん剃いところなあ♡

はあい♡むぎむぎ♡

彼女の手で皮を剥かれる。  
皮の中にこもった臭いが  
もわっと立ち上った。





たのし〜♡たのたのたの♡

うわ、くっさあゝ♡  
さてはおちんちん洗ってきてへんね？  
私にくさゝいおちんちん  
しゃぶらせたかったん？

しょうがないなあ♡  
最近よく来てくれるし特別やで♡



そう言うと犬山さんは流れるように  
僕の物を啜えこんだ。  
口が窄まり綺麗な顔が下品に歪む。

んっ♡(ちゅぷっ♡)

◎◎君のは啜えやすくて助かるわぁ♡  
大きい子やと顎も痛なるし  
大変なんよ♡  
このままよだれ溜めるから  
少し待っとなぁ♡

剥きたての敏感な亀頭が  
暖かくぬるぬるした犬山さんの  
口に包まれている。

心地よさに浸っていると  
時折鈴口を舌先で弾かれ  
そのたび腰がビクッと動いてしまう。

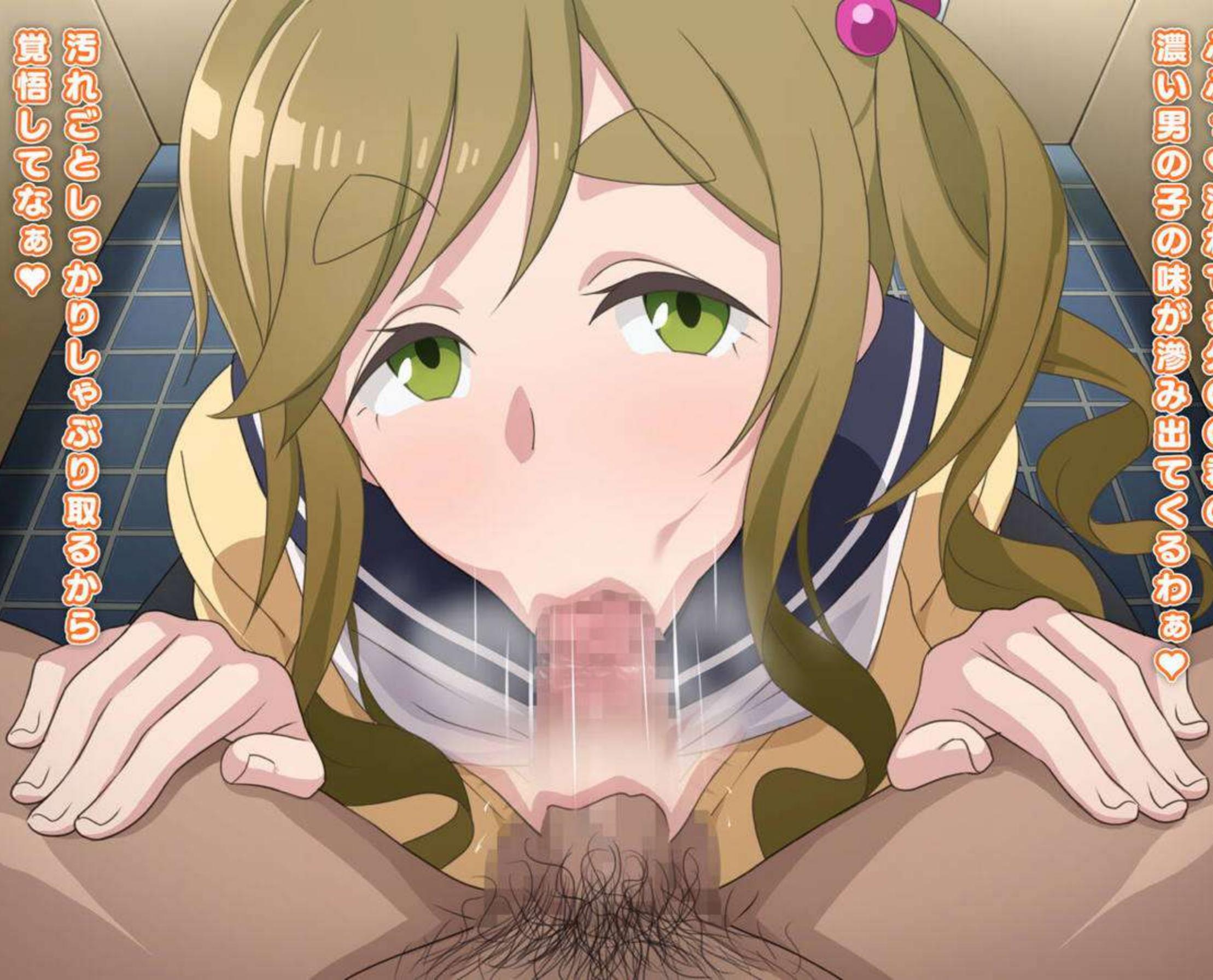
よっし♡それじゃあっんぽっ♡





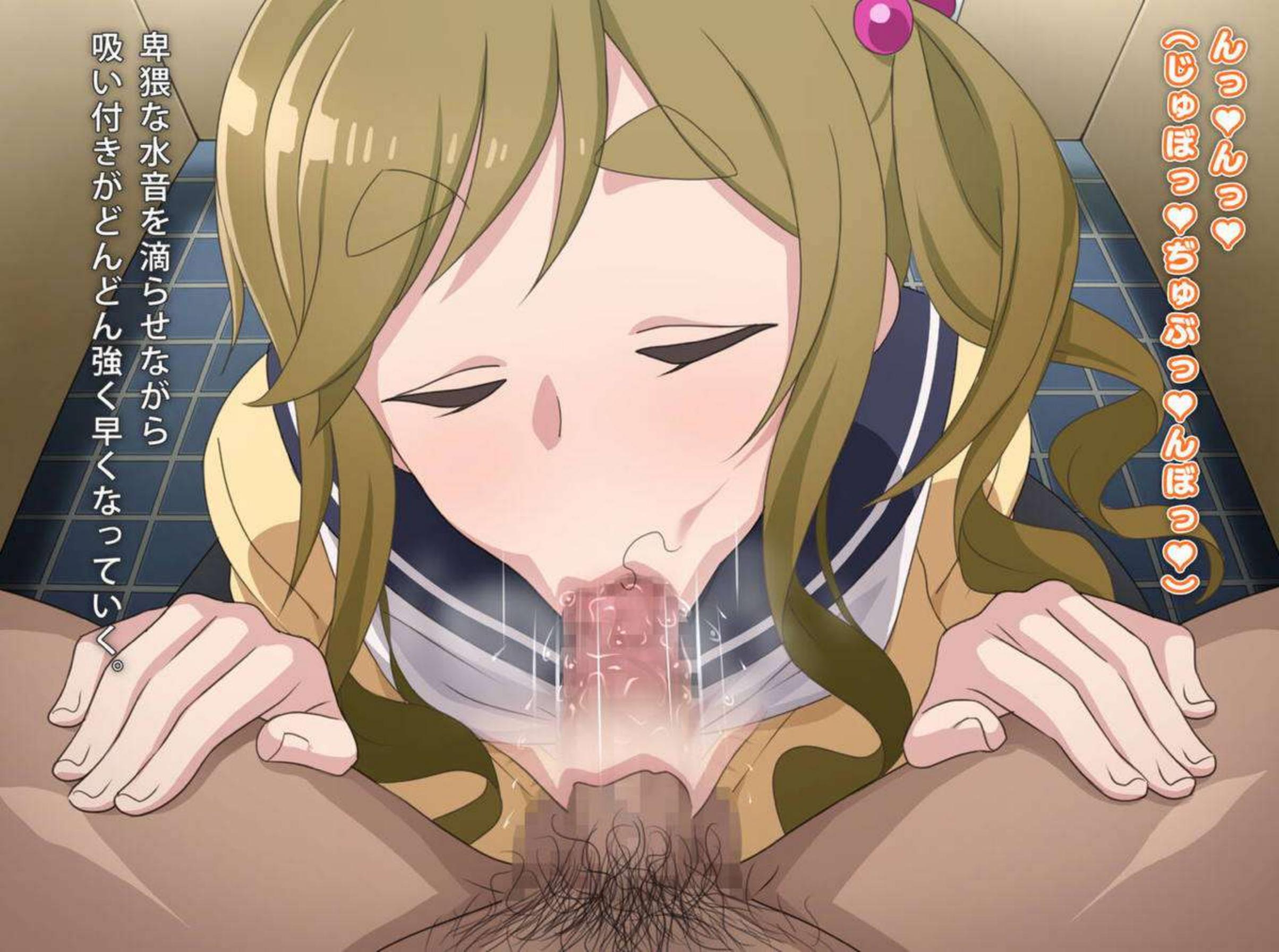
ふふっ♡汚れてる分の君の  
濃い男の子の味が滲み出てくるわぁ♡

汚れごとしっかりしゃぶり取るから  
覚悟してなぁ♡



んっ♡んっ♡  
(びゅぽっ♡びゅぽっ♡んぽっ♡)

卑猥な水音を滴らせながら  
吸い付きがどんどん強く早くなっていく



んぶっ♡んぶっ♡

ふぶっ♡もっ♡うっ♡きっ♡うっ♡やね♡

それじゃあ仕上げ♡

(おっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡)

精液を吸い出すように吸引されると  
僕はたまらず精液を吐き出した。





